

# 吹田市で教員向けのがん教育研修会 佐瀬・順天堂大教授が講演



講演する佐瀬教授

大阪府吹田市教育委員会と吹田市学校保健会は2月16日、教員や市内の学校医、学校歯科医、学校薬剤師を対

象にした、がんの教育に関する研修講演会を吹田市内の市文化会館で開催した。文部科学省が来年度からがん教育の全国展開の方針を示していることを受け、がん教育の必要性やその進め方を学ぶのが狙い。日本対がん協会と各地でがん教育を実践している佐瀬一洋・順天堂大学大学院教授が「モデル授業から得られたがん教育への感謝と期待～医師として、患者として、子どもを持つ親として」と題して講演。約80人が参加した。

講演会で佐瀬教授は、自分が悪性骨軟部肉腫という希少がんを患った時にがんを不治の病として描くドラマや映

画を見て絶望したものの、治療を受けて、生かされていることへの感謝の気持ちを示し、「時代が変わっても変わらない命の尊さと、正しい知識の大切さを子どもたちにぜひ伝えて欲しい」と呼びかけた。

また、がんの知識を教えようということにこだわらず、「がんのことを知らないからと遠慮することなく、外部講師を活用するなどして、まずはがん教育を実践してほしい」と強調。「それには個別の先生の対応では無理」として、「教育委員会や行政の保健福祉部局、がん拠点病院などとの連携が必要」と訴えた。(本多昭彦)